

IV 平成23年度派遣職員座談会記録

1 趣旨

平成23年度に陸前高田市に派遣された職員の座談会を開催し、派遣職員が被災地で経験したことや感じたこと、今後の名古屋市の防災対策への提言を記録として残すこととした。

2 開催日時

日時：平成24年6月15日（金） 15時00分～18時00分

3 出席者

現所属	補職名	氏名	派遣先での担当業務等
総務局総合調整部 総合調整室	副係長	志村 巧	防災関係事務
健康福祉局緑保健所 保健予防課	課長	日高 橘子	保健指導業務
住宅都市局都市計画部 都市計画課都市計画係	技師	阪野 武郎	復興計画策定関係事務
緑政土木局農業技術課 農業土木係	係長	北田 芳章	林道事務、交付金事業、 災害状況調査等
上下水道局総務部調査課 事務管理係	係長	栗田 義之	水道事業運営事務
東区区民生活部 市民課窓口係	主事	浅井 俊之	住民票交付等の窓口業務
総務局総合調整部	主幹	加藤 誠司	被災地域支援本部事務局

4 司会進行、コメント

現所属	補職名	氏名
総務局総合調整部 総合調整室	主査 (被災地支援に係る連絡調整)	伊藤 公一
消防局防災部防災室	主査 (危機管理)	小林 勝哉
消防局防災部防災室	主査 (震災対策)	山田 尚功

5 座談会会議録

○陸前高田市“丸ごと支援”決定の経緯

(司会) どのような経緯で名古屋市が陸前高田市を全面支援することに決まったのか、また、その過程で拠点探しなど様々な課題があったと思いますが、どのようなことで苦労されたのか教えてください。

(加藤) 私は第二次先遣隊として3月22日から25日の間、現地に入りました。3月16日に総務局総合調整室と消防局防災室が合同で事務局を担う「名古屋市被災地域支援本部(以下「本部」という。)」を立ち上げ、従来の枠を超えた被災地支援のため、まずは先遣隊を派遣することになりました。本市は岩手県陸前高田市を支援することになるのですが、あらかじめ支援先を決めていた訳ではありません。19日には第一次先遣隊が岩手県庁(盛岡市内)を目指して出発し、翌20日に着きました。岩手県庁には本市は被災直後からすでに緊急消防援助隊を派遣していました。これに加えて、岩手県庁では環境生活部が窓口になってくれたことで、県内の被災情報等の収集ができました。当初、どの部署と調整するのか難しいところがありましたが、環境生活部環境生活企画室の佐藤主査が率先して本市の対応をしてくださったので、その後の調整や情報収集がやりやすかったです。感謝しています。政策地域部市町村課が派遣受け入れ調整の窓口と知るのは4月に入ってからです。「陸前高田」という名前が初めて出たのは第一次先遣隊が帰る前日の21日で、岩手県保健福祉部から「陸前高田の保健師の支援要請が出ている」と具体的な話がありまし

た。第二次先遣隊で行った私は、22日に花巻空港でその事実を聞きました。第一次先遣隊は宮古市と山田町と大槌町を見てきたという話で、宮古市では市長に会って直接話を聞いていました。ただ、岩手県からは「陸前高田」という具体的な名前が出ているので、第二次先遣隊は陸前高田市がある県南部を調査してみてもどうかと引き継ぎを受けた後、岩手県庁へ行きました。

県庁で環境生活部の佐藤主査から情報をいろいろ聞いた後に、当方から「陸前高田市より保健福祉部へ要請が出ているという話を第一次先遣隊から聞いています。」と伝えたところ、保健福祉部の根子副部長に引きあわせていただき、「名古屋市が人的支援をしてくれるのであれば、陸前高田の話聞いてもらえないか。」と直接要請を受け、翌23日朝、陸前高田へ向けて盛岡を出発しました。

岩手県の沿岸広域振興局(大船渡市内)を経て、陸前高田市内に入りました。まちが壊滅している姿を目の当たりにして言葉を失くしました。テレビで見ると実際に目の前で見るとは衝撃が違いました。市街地を経由して高台の陸前高田市の災害対策本部になっていた給食センターに行き、騒然としている中、菅野健康推進課長に会って話を聞きました。菅野課長からは、「保健師がいなくなりました。避難所には巡回のために全国から保健師が集まっているので、そこは何とかやれる。だが、市役所内の業務を行う保健師がいないのでこの先保健事務が回らない。助けていただければぜひ保健師を派遣してほしい。それも短期ではなく長期で、なおかつ一日

も早く来てほしい」という話を聞きました。

菅野課長からは、
実は保健師だけではなく職員全体で100人ぐらい行方がわからなくなった人や亡くなった人がいて、大変な状況になっているという話も聞き



ました。佐々木都市計画課長からも話が聞け、都市計画課では若手の2人が亡くなってしまい、途方にくれていました。お二人の話聞いて、残された職員は憔悴している、そこへ入って手助けできないものかという思いを持つ一方、相当の覚悟を持たないと入っていけないという思いも持ちました。

職員の4分の1近くも亡くなり、市役所も壊れて使い物にならず、行政機能が麻痺してしまった状況を目にし、耳にして、こんなにひどいところはほかにあるのだろうかと思いました。宮古市に入った第一次先遣隊からは一応庁舎はあるという話を聞いていたので、それに比べると陸前高田市はほかにひどいのではないかと。陸前高田市の現状を知るまでは、本市の被災地支援は宮古で進められていくのではないだろうかという先入観を持っていましたが、そうではない、我々は我々で、被災の状況を見た以上、よりひどい方を助けに行くべきではないかと第二次先遣隊4人は同じ考えを持つに至りました。

帰り際に、白川総務部長にもお会いしましたが、白川部長は意外に冷静でした。「応援してくれるのはありがたいけれども、こ

れは国とか県の調整もいろいろある中で決まっていく話なので、今日の段階ではお願いしますという話はできない」と話されました。現場の課長と総務部長とでは、支援に対する見方が違うのかなと感じましたね。

この状況を取り急ぎ本部に報告しました。次に第二次先遣隊は何をすべきか。仮に陸前高田を応援しようと決めても、職員を派遣する拠点等も決めずに行っても駄目だろうと考え、どこが拠点にできるのかという調査を翌日に行うことにしました。調査する中で、本市派遣職員がお世話になることになる富二屋旅館（一関市大東町摺沢）が偶然に見つかりました。パッと見はあまり大きいようには見えなかったので一旦は素通りしましたが、メンバーの一人から「ここまで来たのだから一度見た方がいい」という意見が出て、その旅館に飛び込みで入ってみました。声をかけても、人影は見えるけれどもなかなか出てこられませんでした。おばあ様（大女将の藤野博子様 平成23年9月ご逝去。）がいらっしゃるんです。派遣職員を1年にわたりお世話していただくことになる、後の女将藤野静枝様も一緒です。20何人は泊まれる大きなところだとわかりました。その時点では既に横浜や岐阜などの他都市も動いていて、もう来られましたよという話があったので、早くしなければ拠点が見つからなくなってしまうと思いました。やはり自分たちが支援するところを早く決めなければいけないと。今回のように丸ごと支援という形で被災地へ入るのであれば、先遣隊は支援先候補と拠点候補の調査をセットで行うべきことを学びました。

我々の次の第三次先遣隊（3月25日～31日）もそうですが、大変な被災状況がわかった以上は陸前高田を支援するべきではないかという意見で、それが本部に伝わりました。4月1日からは住田副市長始め幹部が岩手県と陸前高田市を訪れて支援の方向性を固め、4日と7日の2回にわたって市長をトップとする「名古屋市被災地域支援本部会議」を開催し、陸前高田支援を決めました。陸前高田の状況は非常にひどいという現状が会議メンバーの幹部職員に伝わって、そこを支援するということになり、その後は、派遣ポストの調整、そして人選と進み、22日には第一陣の派遣となったのです。

○派遣職員に決まった経緯等

（司会） 陸前高田市への派遣職員に決まった経緯、決まってからの心境、ご家族の反応などについて、それぞれ教えてください。

（日高） 私は短期でボランティア的に行きたいと思っていました。本庁から電話がかかってきて、4月22日から1年行ってほしいと、いきなり言われました。私は職場でプロジェクトを立ち上げ、大学院にも通っていたときだったので、とても驚きました。

次の朝、職場に出勤後区長室に呼ばれて、区長も、よく考えたら私しかいないと言うわけです。条件的には丈夫さ、家庭的な環境、それから自動車の運転技術の条件としても、山道を自分で運転しなければいけないかもしれないので、それが絶対条件でした。そこで結局私しかいないとなりました。その日から私が異動した後の職場の環境整備がはじまりました。やはり長期派遣では後

任を決めるのにも、4月の異動のあとのため、職場が了解しなかったり、色々な条件があったのでかなり手間取っていました。

（北田） 発災直後は違う職場にいて、4月の派遣職員募集を知りました。阪神・淡路の時も中越の時も派遣があり、当然誰かには声がかかるのかと思いましたが、とりあえず手を挙げて、家族にも話しておきました。家族はどこに行こうか、うちは子どもも小さくはないので、いいんじゃないかという反応でした。覚悟はしていたので、まあやっぱりと言うぐらいですかね。

（浅井） たまたま震災当日は風邪で休んでいました。テレビ放映を見ていて、何かすごいことになっているなどと思い、その日の夜に家族でご飯を食べながら、「もし被災地へ行けと言われたらお父さんは行こうと思うけど、どう？」と聞いたら、誰も反対せず、行ってくればよいという話になりました。

区役所の市民課では、派遣期間の調整にバタバタしていたようです。東区は市民課の幹事区ですので、市民課からも出さなければいけないということで、その当時の管理係長から、自分も手を挙げるから一緒に行こうと言われました。家族に相談しなければいけないから返事は少し待ってもいいよという話でしたが、声がかかったときにその場で、即決で行きますと応えました。

（栗田） 私の場合は、3月11日の発災時にいた部署は上下水道局の総務課でした。渉外担当主査をしていましたが、名前のイメージと違い、その仕事は防災担当なんです。水道というのは、日本水道協会という全

国組織がありまして、中部には9県、全県で300ほどの都市があり、その中で名古屋は中部を統括するという役割を持っています。全国には各地区を統括する大きな都市が全部で7つありますが、それらの都市と情報交換をしながら、発災当日、とにかく東北に応援に向かうという話になりました。それから、私は3月末まで、中部のどの県のどこの都市が応援に入るのかという調整業務をしていたため、現地の状況は比較的わかっていただけたと思います。

ただ、4月1日に他部署に異動したため、これで応援活動からは一線を退いたなと思っていましたが、公にはないですけども、一つの都市を本格的に支援するというわさが流れてきていました。ある日、次長と部長に呼ばれて、こんな話があると言われました。うちへ帰って、被災地に長期で行くことになったという話を家内にしたら、意外にもあっさり「いいんじゃない！」と。翌日、喜んで行かせてもらいますという返事をしました。

(日高) 家族よりも職場のほうがネックになりますよね。職場環境をどうやって整えるか、周りにどれだけ迷惑をかけないようにするか、穴をどうやって埋めるか。

(志村) 3月11日の震災直後の夕方から既に、消防の場合は現地に派遣されるという話があって、それは2泊3日の短いローテーションですが、ああ、行くことになると思いました。もともとそういう仕事ですので、もしかしたら行くかもしれないという電話だけは家に入れておきました。当時は天白消防署植田出張所に勤務していて、荷物をまとめて待機していましたが、結局

派遣されませんでした。

私は阪神大震災でも派遣されなかったので、何かの形で震災の業務に携われないかなということは思っていました。第一次支援隊が4月22日に出発する映像を見た数日後だったか、7月31日までの2か月ちょっとという派遣期間で、消防局に被災地支援の応募がかかりました。何らかの形で携わりたいという自分の日ごろからの思いもありましたし、前に防災室にいたときにやっていた業務が応募の職種内容と通じるものがありました。応募に応じるとなると所属の課長や係長の了解を当然取らなければいけないですが、2か月ちょっとなので、少したったら帰ってくるのだから行ってこいという形で出してもらいました。家族の反応としては、3月11日の夕方に行くかもしれないという連絡をしたときに、はい、どうぞという反応でしたね。

(阪野) 私の場合、小さな子どもがいますので、承認を得るのは家族のほうが大変でした。初めは2か月の期間という話で聞いていました。ただ、当時の新聞などにも現地では1年間という長期を求めているとのことで、たしか私の理解では、本部からも第二次支援隊の派遣はほとんどが長期という説明だったような気がします。そういう話で、皆長期で行くのだから仕方がないということで家族にも了解してもらいましたが、ふたを開けてみたら、長期の派遣職員はほとんどおらず、当初から1年間の派遣だったのは、たぶん栗田さんと私だけだったかと思います。

(北田) 5月11日に緑政土木局から派遣

された職員は4人いましたが、4人とも3か月ぐらいで行ったので、最初に言われたのは「長期なんですよね?」ということでした。だから長期の感覚が違うんです。私達は3か月といえば長期で、普通に長期出張とか言いますが、向こうの人にとっては長期とは最低でも年単位で、3か月は短期になるんですね。

中長期で入ると言いながら何でこころろ替えるんだ。入ってしばらくしたら向こうから、中長期で当然最後までいるのだろうというイメージでいたら、次から次に帰っていくので、話が違うじゃないかと言われました。仮に最初の人々が1か月で帰っても次の人は最後までいるだろうと思っていたので、短期で替わることはつらいという反応でした。

○被災地の第一印象、生活面で苦労したこと

(司会) 派遣されて最初に被災地に入ったときの印象を教えてください。

(日高) 私は、陸前高田の事前情報がほとんどなかったんですよ。たしか第一次隊の招集があり、説明会のときに初めて資料をもらって、写真を見て驚きました。そして、実際に行ってみたら、矢作の橋を渡る手前で突然ガレキの山がバーンと出現し景色が変わり、いきなり息苦しくなったんです。この息苦しきは何だという印象ですね。4月に行った頃は、まだ町全体のガレキが片付けられていなかったもので、津波とはこんなにすごいものかと思いました。

私は最初保健支援チームの本部に詰めていて、職員全体も疲れてはいたようですが、

一番印象に残ったのは辞令交付式のときの市長さんの顔色が悪かったことです。住民よりも市長さんが一番疲れているなというイメージがありましたね。長期間派遣されていて徐々に市長さんが少しずつ元気になっていくのを見て、順調に行っているのかなと思っていました。

(志村) 被災地支援マニュアルは総合調整室で作成したのですが、これを作成するのはかなり大変だったと思います。これを見て、現地の状況や摺沢について良く分かりました。被災地はどういう状況かというのは、僕は消防なのでそちらのほうの画像とか映像を見ているので、何となく印象は持っていました。

(司会) 派遣先での生活面で苦労されたことを教えてください。

(日高) 何しろ車通勤で歩かなかったもので、体重管理が一番大変でした。他の派遣職員さんも一所懸命気をつけていたとしても、私以外にも大体4キロ、ひどいと7キロ太ったという人もいました。それだけ歩かないということです。

(阪野) 私は、一人部屋だったので良かったのですが、相部屋だった人は3か月の間は大変だったと思います。

(日高) 冬はインフルエンザの流行を心配していました。長期派遣の人は徐々に寒くなるからいいけれども、短期派遣の人は派遣直後みんな風邪を引いていました。11月頃から風邪を引く人が出てきたので、私が物資から薬やマスクなどを確保し派遣職員に配っていました。

あとはバスが2便しかなかったもので、それまでに仕事を終えなければいけなくて、宿に仕事を持ち帰ることも多かったです。冬は道路の凍結のため、そのバスに乗らないと帰れそうもないということで、仕事の調整がちょっと大変でした。

(北田) 私達は宿舎が借り上げた民家だったから、風呂も自分達で沸かさなければ入れませんでした。私は夏に行きましたが、やはり冬は大変だと思います。

○派遣先での業務執行にあたって印象に残ったこと、住民の反応等

(司会) 派遣先で担当した業務の執行にあたって印象に残ったこと、住民の反応等について教えてください。

(日高) マスコミで私に取り上げられたりしたことが心配でしたが、住民にも良い影響がありました。「お茶っこサロン(住民の交流の場である)」の参加者は、特に被災地の人は遠いところから支援に来ているということをすごく喜んでいました。自分らのことをずっと忘れないでいてくれると、感じ取ることができたようです。やはり住民の反応から陸前高田への支援のやりがいを感じることができました。確かに被災者の方たちは疲れて、先が見えないというのはあるかもしれませんが、そういう面はよかったです。

(阪野) 当然のことですが、市民は喪失感や不安を抱えており、状況や環境の変化によって考え方が変わっていきます。避難所にいるときの考え方、仮設住宅にいるときの考え方、いろいろ変わっていくという

ことはすごく勉強になりました。

同情の意識なのか、初めは誰も行政に対して厳しくはしなかったんです。それが年明けぐらいからだんだんとシビアな話になってきて、復興の遅れなど行政への批判も聞こえるようになり、たぶん今が現実と理想の狭間に大変だと思います。



(志村) 8月14日に最後の避難所が解消されて、みんな仮設住宅に入るなど生活が落ち着いてくると、防災に対する要求、行政に対する要求が高まってきました。私が担当していた業務は防災無線の復旧などでしたが、復興計画の関係もあって、どこに防災無線を建てるかというプランも、すぐには決めることができませんでした。そういう中で、できるところだけは応急復旧をして、徐々に吹鳴するようにしていましたが、市民は津波によって家族を亡くしたり家を失ったりして、非常に恐ろしい目に遭っていることから生活が落ち着いてくると二度とそういう目には遭いたくない、恐怖から逃れたいという思いがあって、防災に対する要求が徐々に高まってきた状況でした。

陸前高田市では、被災前は防災無線のミュージックチャイムが朝昼夜に鳴るようになっていて、毎日それで時を知らせていました。それが3月23日に復旧して、市内に音楽を流せるようになったときに、被災前の生活に戻ったようだと市民から言われました。それが特に印象的で、ここに1年い

てよかったなと思いました。

(栗田) 陸前高田では、コンピュータが壊れたことで、中にあった使用者情報が全部なくなってしまったので、水道使用者全員から申込書をもう一回書いてもらうという説明をまず受けましたが、そんなことは名古屋市では絶対にできないなと思いました。本当にそんなことできるのだろうかと思っていたら、皆さん市役所まで進んで申込書を書いて出しに来てくれるし、公民館の会長さんなどが取りまとめて集落に配ってくれて、しかも集めて持ってきてくれるということで、これには驚きました。

もちろん全員が全員そういう人たちではなくて、最初に申込書をきちんと出してくれる人もいれば、結局最後の最後まで出さないでいる人も、やは



りいました。そうすると、9月には、被災以来、無料だった水道料金を半年ぶりにもらうことを再開しましたが、料金をもらう以上、誰に水を届けているのかということがわからなければいけないので、申込書が出ていないところは、結局水を止めに回ったわけです。で、そのときになって初めて苦情を言ってくる人がいました。この辺はどこも同じかなと思いました。

ただ、後で苦情を言ってきた人たちのなかには、陸前高田には住んでいない人たちも多くいました。申込書を各家のポストに投函し、それを自主的に持ってきてくださいというやり方をしたので、東京や横浜に

避難していた人は当然気づかないわけです。

(阪野) どうしようもなかったですね。復興計画を皆さんに示しますといっても、東京や大阪にいる人にはどのように知らせるのかと。ホームページに公開しますといっても、どうやって見るのかわからないと言われるなど対応に困る場面もありました。全国の避難先に各戸配布することは現実にはできません。もちろん避難所と仮設住宅には全員に送るのですが、東京とか大阪などに避難している人の住所に全部郵送するのは、そこまではなかなかできないですね。

(日高) 1つだけ苦情がありました。避難所間で物資など支援の差があったということと、仮設と在宅者でも物資支援の差があって、すごく苦情があったんです。規模が大きい避難所は中の設備も良くて、有名人の炊き出しやイベントもたくさんきていました。ライフラインなど水道や電気も最初に回復するなど差がありました。小規模の公民館にいる人たちとは、大きな差がありました。仮設住宅でも、小規模やわかりにくい場所にあると、集会所もなく、いろいろな支援が来なくて、不満が出ていました。

私が活動している間の課題として、個人宅避難者の状況把握があります。要するに身内や親類の家などで避難生活をしている人たちです。仮設住宅に入っても一人では生活できない高齢者世帯や親族の家にもそのまま同居生活した方が最初は数千人もいました。仮設住宅が完成しても尚個人宅避難者が数百名も残っているのが懸念されました。あとは自分で家を借りた人たちもわからなくなったので、それを第2回健康生活

調査で確認しました。それでもまだ漏れていたということで、年末から社会福祉協議会と協力して、自力で家を応急修理し、自宅に戻った人や自力で借家を借りた人を把握することに努力しました。それらの方たちは物資や健康支援、情報が全然行かなかったんです。秋の健康調査の時に、県内外の保健師やいわて生協に応援を依頼して、いままでの不満を2時間くらい聞きながら、布団などを含め、物資の配布に行ってもらったということがありました。

(浅井) 私が現地に行ったときに、感心したことがあります。3月13日か14日ぐらいからだと思いますが、被災者の死亡届の受付をして埋葬許可証を出していたことです。それを震災の2日後ぐらいから始めていたということで、すごく対応が早いなという印象を持ちました。

ただ、当然のことですがコンピュータがすべてダウンしているので住民票も戸籍もすべてのものが手作業になり、受付をするだけで精一杯で、派遣された時点で約800から900の案件が山積みになっている状態でした。遺族年金とか労災保険の請求には戸籍が要るので、それがないとお金がもらえないということで、そのニーズに応えるため戸籍の処理を派遣期間中毎日のように行っていました。

派遣から2週間目の5月24日ごろには、3月中に受け付けた届出の戸籍謄本やっ



交付できるという状態にまでなりましたし、帰ってくるころには、一応、当日分のすべての届書の処理がその日にできるところまで回復できました。これは前年12月に紙戸籍からコンピュータ戸籍への移行を陸前高田が行ったことが幸いしました。ちょうどそのときのデータが残っていたのです。ただ2月から震災までの間の結婚、死亡、出生という届書や戸籍データがすべてなくなってしまったので、その復活が帰ってくる時点での課題でした。

(北田) 市役所が丸ごと被災したため、図面や申請用紙がありませんでした。そこで、主に被災した市役所で図面を探し出して、復元業務を行いました。また、私が行ったとき、ちょうど戸別所得補償制度が始まりましたが、窓口で書いてもらう申請書類もなかったもので、流された書類を拾ってきて、それをワープロで起こして申請書を作成しました。

本来窓口へ行けば、記入してもらう申請書がないので、それを作成していた職員もいました。だから、僕は林政なので、山に行くと木を見ていると、植林してありました。木はそんなに早く伸びないですから、30年とか50年の単位の仕事。そこで借地権がすごく、昭和20年とか40年とかで借りている人がいても、名前も絶対今はない名前、何とか甚右衛門、何兵衛とか古い名前が多かったですね。貸借関係などが結局わかりませんでした。誰かの山なんだけど、誰の山なのかわからない。地元は知っているんだね。役所はわからないから、何とか台帳とかがあるんですが、台帳を拾って乾かしました。道路台帳のような台帳類、

地形がまるっきり替わっている。たぶん復興するときに杭も戻らない。境界杭などはまちの中にありません。だけど図面は残っているから、とりあえず図面だけを何とかと、この辺に家が在ったとかの復元ができるとかね。そういう資料を整理したのは非常に、古文書じゃないけれども古文書状態。要するに図面が一番現地をよく知っている図面。僕が戻せたのは復興の際には価値が出ると思います。

名古屋市でもたぶん市役所や16区全部の区役所が潰れるということはまずないんでしょうが、窓口で受ける書類がないとか、現地を知るものがないということはあると思います。確かに今はPCで処理をすれば図は描けるけど、停電や水につかったのは使えなくなるためにバックアップするか、いかに方向性のものが出せるかということですね。だからたぶん戸籍だって何とか、紙が出てくればそれでつくっていきけるだろうし、機械でつくったのが正確かどうかはわからないけど、役所も結構機械でつくったのがあります。データ化されてなければいけないものが、されるべきものだったりするものがあるので、そういうのはやっぱりきちんとしなければいけないと感じましたね。

よく調べると、町中に過去の津波到達箇所あたりに、石碑などもなにげに建っているの、その周知や保存も必要だと思います。

避難場所も急な階



段を上った人は助かっていて、少し高いところへ逃げた人は持っていかれてしまった。そういうことがあるので、確かにいろいろなことをやるのも大事だけど、そういうものを確認していくのも大事だと思います。図面を見ているとわかりますね。古い図面を見ていくと地形図とかありますので、そういうのが整理する必要は感じましたね。

(浅井) ちょっと話は戻りますが、12月から3月11日までの届け書がなくなってしまったんですが、今の電子データというのは一応バックアップがやっとできるようになったんです。日々のブックデータを何とか電子データ化して、バックアップすることが必要だと思いました。それが毎日でなくても1週間とか2週間でもいいのでやっておくと、そこまでの分はすぐに復旧できます。1週間分まとめてやっていけばなくなった分は1週間で済みますから、紙データをいかに、被災したときにも保管していくか。それがやはり大事ではないかなと思います。

○名古屋市の震災対策への提言

(司会) 最後に、陸前高田市での経験を踏まえて、名古屋市の震災対策への提言をお願いします。

(阪野) 復興計画というのは、言うなれば絵に描いたモチですので、正直言ってどうしてもそんなに急いでつくらなければいけないものではないと思っており、むしろ重要なのはどのように作成したのか、そのプロセスです。マスコミ等では、石巻では復興計画をつくったけれども陸前高田はつ

くらないんですかとか、まるで競争かのように報道するのですが、行政としては、急ぐべきはまずは復旧です。復興計画は、急いでつくるに越したことはないですが、是が非でも急がなければいけないものではないと思っています。大事なのは復興計画をつくった後の話で、これをどのようにして行政と市民が協力して実現化するかです。

(志村) 今回1,700人ぐらいの亡くなった市民の様子を色々な人から聞いてみますと、避難所で亡くなっている人も多数いるんですね。今後、名古屋市の避難計画を立てる中で、避難先をどこにするのかなどが課題なのかなと思います。避難といえば、まず避難所へということですが、名古屋市の避難所は小学校か中学校、コミセンなので、2階建ての体育館などへ避難していたときに陸前高田市と同じような状況が起きたとすると、避難所としての役目が果たせなくなる。だから、津波の場合は避難所へ避難するのではなく、より高いところへ、また、逃げ遅れた時は津波避難ビルへ避難した方がいいのではないかと思います。

もう1つ、消防団員も避難誘導中にたくさん亡くなっています。住民の命を守ることが消防の責務なので、それは当然やっていかなければいけません、ある程度の時間などを制限した上で、自分も逃げることを考えなければいけない。そのように、防災関係の職員に対してどの程度まで避難誘



導をしていけばいいのかということも、真剣に考えていくべきだと思いました。一つの方法として、津波の場合は、ある程度の時間を制限して、この時間以上になったら自分も避難することを念頭に置きながら、活動をしてもらうということです。

(栗田) 今回被災地へ行って思ったのは、最後はマンパワーなのかなということです。名古屋市には職員が2万6,000人いますが、では災害が起こったときに全員がすぐ動けるかといったら疑問です。ある程度見極めたところで、積極的に支援を請うというスタンスのほうがいいのではないかと思います。特に水道の場合は24時間体制で動きまわすので、陸前高田の場合は、夜は水を出さないということもありましたが、名古屋の場合は病院も抱えているので、水がどうしても必要なところもあるわけです。結局は人のローテーションとか、自分や家族が被災しながらも動くということで、どこかで休むことを考えると、SOSを早めに全国発信してたくさんの人に集まってもらうことが重要なかなと思います。

もう1つ、陸前高田の水道事業所の職員自体は、あまり現地には出向きませんでした。実際には地元業者の人たちが現地へ行くわけです。現場の管がどこに埋まっているのかわからないとか、どうしても必要なときだけ現地に出るという形なので、名古屋市が被災したときには市の職員はなるべく動かない体制をとって、水道サービスなど信頼のおける他団体が音頭を取って動くようなシステムをしっかりとつくったほうがいいと思います。

(日高) 私の場合、災害弱者の対策が一番の課題になっています。災害弱者の人たちにも、平常時の準備をもう少しお願いしたいと思っています。今回逃げ遅れるなどで亡くなった人がかなりいますが、近所の人とつき合いがあったり家族が何人かいたりすると、そういう人たちが助けてくれたということがありました。私はそれを今色々ところで話しています。やはり日ごろからの近所づき合いが大事ですよ。



自主防災組織の中での動きが色々なところで出てきているので、それをどのようにシステム化していくかが役所の役割だと思います。最終的に役所が助けにいけるかどうかはわかりませんが、依存度の高い人、例えば人工呼吸器をつけている人、在宅介護を受けている人、動けない人などをまず把握しなければいけないと思いました。

福祉施設などでも防災用品とか備蓄品を備えていかなければいけないと思います。今回困ったのは、薬の情報などが全然なくなってしまったことです。施設でそういうもののコピーをきちんと取って、いざというときには、ものがなくなってもそれを見せたら処方を出してもらえるように、医療情報もバックアップしておくことも必要だと思います。

また、名古屋市避難所の中には、非常用の電源がない。発電機もない。応急の水洗もないし、水も蓄えてなくて、これで避難所というところもある。そういった避難

所については見直しが必要ですね。

そして、行政も被災する場合もあるし、限界がある。そのため、市民の皆さんが自分でやるんだよと、はっきり言ったほうがいいのかなと思います。自助努力をしてくださいと言ったほうがよいと思います。1週間分は自分で何とかしなければいけない。避難所に来るときは自分の分の食べ物と水は持ってきてもらうよう、はっきりとおいたほうがよいと思います。名古屋市が、はっきり言わなければいけないと思います。

(浅井) 私は東区役所にいますが、陸前高田市の人口は、東区と比較すると約3分の1の規模になるのですね。そこで災害があったので名古屋市が丸ごと支援をしたわけですが、では名古屋市で同じように地域の広範囲に被害が及んでしまったときに対応できるかどうかという、現実的には難しいかと思います。東南海地震が起きたときに、名古屋市はダメ、豊橋はダメ、岡崎はダメ、豊田はダメという状態のとき、支援を必要とするところがみな大都市のとき、はたして全国から支援が十分に期待できるかと考えると実際問題としてどうなのかなと思います。

その辺のことを名古屋市民が理解して、まずは自分で生き抜く。生き抜けたなら、その後はどのようにやっていくか。そういうところを市民一人ひとりが考えることも大事かなと思います。

(北田) 学校報告会で校長先生が言ってみえた「釜石の奇跡」じゃないですが、「津波てんでんこ」というのをやるべきですね。

親が子どもを迎えに行こうと思ったけれども、子どもも逃げているだろうということで、避難の方法、確実に逃げて自分の身を守るということを言うべきですね。昔みたいに助け合ってくださいと言ってもダメです。

もう1つ、名古屋市もトリアージ、いわゆる災害時には、どの業務を優先し、どの業務を縮小又は停止するというのをやるべきですね。何を捨てて何を残すか、行政も含めて、業務の計画をやるのがトリアージですね。自治体でもトリアージをやるべきだと思います。何の業務を捨てていくか。大きなレベルでね。極端に言えば災害復興でもトリアージをやって、ここは捨てていくべきだと。重要な施設はしょうがないけれども、ある程度のところはもう切っていないと、名古屋市の半分が水につかって半分を残しますといっても無理でしょう。

(日高) あとは、今回はNGOさんたちには本当にお世話になりましたので、防災を考えるときには民間企業やNGO、NPOを含めて想定していくべきかと思います。実際の防災対策にしても行政のみでの運営は無理かなと思います。動きとしては行政よりも早いし、柔軟でノウハウも持っているので、中部エリアの色々な団体にぜひ事前に話しておいた方がいいと思います。



6 まとめ（名古屋市の震災対策に対する意見・提言等）

- ・業務に必要な情報についてバックアップ。（電子データだけでなく紙によるバックアップも大切）
- ・過去の災害の歴史を学ぶ。
- ・災害時に行う業務について優先順位をつける。
- ・津波については、避難所に逃げるといった概念にとらわれることなく、津波避難ビル等のより高いところへ避難する。
- ・「津波てんでんこ」を啓発する。
- ・津波が想定される地域において、それに係る広報や避難誘導に従事する職員等の命を守るために、活動に係る時間を制限する。
- ・近所づきあいが大切。（いざという時に助けになるのは隣近所）
- ・自助の底上げをするための啓発をする。（大規模災害では、行政（名古屋市）も被災するため、災害時は自助努力が必要ということも発信していく。）
- ・避難所等災害時に重要な施設における非常電源、応急給水施設等の整備
- ・避難所運営等について民間団体との連携を推進する。
- ・名古屋市が大きな被害を受け、自力での対応が困難な場合は、速やかに応援要請をする。

V 東日本大震災に係る被災地支援の取り組み経過

(平成 23 年 3 月 11 日～平成 25 年 2 月 20 日)

1 東日本大震災発生から本市の被災地支援活動の経緯

【平成 23 年】

月 日	内 容
3 月 11 日	東日本大震災発災
3 月 16 日	名古屋市被災地域支援本部設置
3 月 19 日～22 日	第一次先遣隊による情報収集 福島、岩手、宮城へ合計 3 億円の物資提供の決定
3 月 22 日～25 日	第二次先遣隊による情報収集
3 月 25 日～31 日	第三次先遣隊による情報収集
4 月 1 日～3 日	住田副市長をトップとする調査チームを陸前高田市に派遣
4 月 7 日	名古屋市被災地域支援本部会議にて陸前高田市を全面支援することを決定
4 月 7 日～9 日	第一次調整隊の派遣
4 月 11 日～13 日	第二次調整隊の派遣
4 月 14 日	「東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや」の設置
4 月 22 日	第一次支援隊出発 (9 名)
5 月 11 日	第二次支援隊出発 (20 名)
5 月 16 日	陸前高田市役所仮庁舎完成
	「陸前高田産業支援デスク」を設置
6 月 22 日	「陸前高田市の子ども達を名古屋市へ招待するプロジェクト実行委員会」発足
7 月 22 日	産業支援に係る交流意見交換会の開催
7 月 26～28 日	陸前高田市職員の健康診断の実施

7月27日～8月2日	陸前高田市の津波浸水地域に対する害虫駆除及び消毒の実施
8月3～5日	陸前高田市立米崎中学校3年生を名古屋へ招待
9月9日～19日	ネットモニターアンケートの実施
9月27日～29日	陸前高田市立気仙中学校1・2年生の生徒を名古屋市へ招待
10月14日～16日	陸前高田市立小友中学校の生徒を名古屋市へ招待
10月15日	陸前高田市長、議長が名古屋市議会にて名古屋市民への謝意を表明
11月8日～23日	在宅被災者に対する健康生活調査の実施
11月23日～25日	陸前高田市立広田中学校1・2年生の生徒を名古屋市へ招待
12月15～17日	陸前高田市立米崎中学校1・2年生を名古屋市へ招待

【平成24年】

月 日	内 容
1月11日～27日	陸前高田市復興支援活動展示会
2月12日	被災地の今を伝える～陸前高田市「丸ごと支援報告会」～（中区役所ホール）
4月1日	平成24年度派遣 陸前高田市（13名）・仙台市（4名）・岩手県（1名）
5月2日	陸前高田市と名古屋市相互の教育委員会による「絆協定」締結
5月3日～27日 （土日祝のみ）	岩手・陸前高田うんめえもんフェア in ナゴヤ
6月5日	職員研修「陸前高田市“丸ごと支援”報告会－被災地の経験をどう活かすか－」（中区役所ホール）
6月14日	学校報告会「震災の経験を伝える」（丸の内中学校）
7月15日	被災地支援の取り組みから今後の震災対策を考える～被災地支援活動報告会～（中区役所ホール）
7月24日～26日	陸前高田市立米崎中学校1年生を名古屋市へ招待
8月26日～28日	名古屋市の中学生の代表が陸前高田市を訪問

8月29日	「店舗繁盛応援団×陸前高田復興支援イベント～結ぼう食の絆、築こう友情のかけ橋～」(陸前高田産品を扱う企業と名古屋の飲食事業者との取引マッチングを図る商談会)の開催
8月30日	「食のビジネス交流イン名古屋」(岩手県内企業と愛知・名古屋の企業との交流、商談会)の開催 「岩手食材のタベ交流会」(「食」をテーマにした岩手県産品等のPR、交流会)の開催
9月26日～28日	陸前高田市立小友中学校1年生を名古屋市へ招待
9月28日～ 10月8日	ネットモニターアンケートの実施
11月2日	“防災について考える”シンポジウム～陸前高田市から学ぶことそして活かすこと～の開催(名古屋都市センター)
11月20日	学校報告会「震災の経験を伝える」(南陽中学校)
12月8日	東日本大震災追悼イベント「Candle Night Nagoya」開催

【平成25年】

月 日	内 容
1月23日～25日	陸前高田市立第一中学校2年生を名古屋市へ招待
2月11日	学校報告会「震災の経験を伝える」(中区役所ホール)
2月20日	「陸前高田市の子ども達を名古屋市へ招待するプロジェクト実行委員会」解散

2 派遣職員名簿

平成23年度派遣職員

派遣先	派遣元	業務内容	氏名	派遣期間
陸前高田市	会計室	会計事務	南良 悦司	5月11日から8月5日まで
			水谷 真介	8月3日から9月30日まで 1月5日から3月31日まで
			大場 章弘	9月28日から12月27日まで
	市長室	企画広報事務	加藤 学	6月28日から9月7日まで
	総務局	庁内LAN、WEBサイト関係事務	杉山 功	4月22日から2月28日まで
			綱島 謙	4月22日から11月16日まで
		企画政策関係事務	西村 宏久	5月23日から6月30日まで
			井下 豊	6月28日から3月31日まで
		被災者支援関係事務	丸山 信之	5月25日から6月24日まで
		企画広報事務	大久保 直樹	9月5日から12月23日まで
	財政局	土地関係事務	河合 利幸	5月11日から5月18日まで
			森下 裕介	5月11日から5月28日まで
			小林 祐介	5月22日から6月1日まで
			溝口 裕介	5月22日から6月1日まで
		市民税事務	成瀬 聡志	7月14日から7月23日まで
			岩見 宏明	7月14日から8月9日まで
			酒井 英明	7月14日から8月9日まで
			山崎 智之	8月7日から9月1日まで
			堀田 尚伸	8月7日から9月1日まで
			濱島 隆	8月31日から9月30日まで
			黒田 文博	8月31日から9月30日まで
			山本 達也	9月29日から10月29日まで
		管財事務	平野 雅也	7月19日から8月18日まで
今西 悟			8月17日から9月16日まで	
家屋評価事務	木村 真治	7月24日から8月6日まで		
市民経済局	住民票交付等の窓口業務	興梶 徹也	5月11日から6月2日まで	
		加藤 裕介	2月29日から3月31日まで	

派遣先	派遣元	業務内容	氏名	派遣期間
陸前高田市	市民経済局	被災者支援関係事務	水野 陽一	5月11日から6月2日まで
			大橋 一仁	6月30日から8月2日まで
			千田 英人	7月31日から9月1日まで
			和田 仁	10月31日から12月1日まで
			前田 浩史	1月4日から2月1日まで
	環境局	環境安全業務	山中 幸一	5月11日から6月10日まで
			酒井 辰也	6月8日から7月15日まで
			佐々木 誠	7月13日から8月19日まで
			毛利 崇	8月22日から9月21日まで
			横丁 靖司	9月20日から10月27日まで
			柴 敦	10月26日から12月2日まで
			高味 俊一	12月1日から12月28日まで
			谷川 浩之	1月4日から1月31日まで
			樋山 邦治	1月30日から3月1日まで
			駒中 隆文	2月28日から3月31日まで
				被災者支援関係事務
	坂上 稔	7月26日から8月31日まで		
	酒井 辰也	9月5日から10月5日まで		
	健康福祉局	保健指導業務	日高 橘子	4月22日から3月31日まで
			安藤 映梨子	4月22日から5月11日まで
		健康推進事務	山田 薫夫	4月22日から6月3日まで
			浦山 恵一	6月1日から7月5日まで
			小田 和志	7月3日から9月3日まで
			加藤 孝幸	9月1日から11月9日まで
			丹野 聡	11月7日から12月28日まで
			笥 賢二	1月5日から2月3日まで
法月 傑			2月1日から3月3日まで	
酒井 英生		3月1日から3月31日まで		
高齢福祉事務	松岡 康治	4月22日から5月21日まで		
	白井 敬二	5月17日から3月31日まで		

派遣先	派遣元	業務内容	氏名	派遣期間
陸前高田市	健康福祉局	生活保護事務	小川 哲次	4月22日から5月21日まで
			廣吉 敏明	5月17日から7月7日まで
			新美 隼吾	7月3日から3月31日まで
	子ども青少年局	児童福祉事務	立松 照康	4月22日から5月31日まで
			前田 達男	4月22日から5月31日まで
			三宅 正記	5月29日から3月31日まで
	住宅都市局	学校建設の施工管理	寺本 秀樹	5月11日から6月10日まで
			田中 啓隆	6月7日から8月4日まで
			荒居 道勝	8月2日から11月2日まで 3月13日から3月24日まで
			花山 晋市	10月31日から2月2日まで
			大林 良樹	1月31日から3月31日まで
		復興計画策定関係事務	阪野 武郎	5月11日から3月31日まで
	企画広報事務	山本 章貴	5月11日から6月21日まで	
	緑政土木局	農業振興、農業関係交付金、補助金業務	鶴飼 広生	5月11日から8月20日まで
			松村 豊重	5月11日から9月1日まで
			入江 孝幸	8月18日から12月2日まで
			服部 哲也	8月30日から12月14日まで
			竹橋 真悠	11月30日から3月31日まで
			渡邊 剛	12月12日から3月31日まで
		林道事務、交付金事業、災害状況調査等	北田 芳章	5月11日から8月18日まで
			宮原 卓也	8月16日から3月31日まで
		農業関係事務	安藤 元一	5月11日から8月23日まで
			八木 裕二	8月20日から12月9日まで
	山本 健司		12月7日から3月31日まで	
	千種区	住民票交付等の窓口業務	滋野 達也	5月31日から7月1日まで
			前野 徹	1月4日から2月2日まで
	東区		浅井 俊之	5月11日から6月1日まで
舟橋 武志			8月31日から10月1日まで	
北区	宮島 祐始		1月4日から2月1日まで	
西区	森 裕紀		10月2日から11月2日まで	

派遣先	派遣元	業務内容	氏名	派遣期間
陸前高田市	西区	住民票交付等の窓口業務	谷口 正	1月31日から3月2日まで
	中村区		松原 一仁	5月31日から7月2日まで
			小西 広道	10月31日から12月2日まで
	中区		伊藤 忠信	6月30日から8月1日まで
			保々 浩明	1月31日から3月1日まで
	昭和区		尾前 治政	11月30日から12月28日まで
			恒川 直也	1月4日から2月1日まで
	瑞穂区		鈴木 康裕	7月31日から9月1日まで
			松田 憲和	8月31日から10月1日まで
	熱田区		田村 頼純	5月11日から6月1日まで
			丸井 勉	8月31日から10月4日まで
	中川区		中川 めぐみ	10月31日から12月1日まで
			鈴木 雅也	1月31日から3月1日まで
	港区		安藤 由美子	10月2日から11月1日まで
			安藤 千珠	10月2日から11月1日まで
	南区		宇野 和世	10月31日から12月1日まで
			金田 直樹	2月29日から3月31日まで
	守山区		村雲 英喜	6月30日から8月1日まで
			吉澤 和代	2月29日から3月31日まで
	緑区		稲元 一喜	5月31日から7月1日まで
		奥村 幸広	11月30日から12月28日まで	
	名東区	村松 宏樹	7月31日から9月1日まで	
		柘植 康甫	11月30日から12月28日まで	
	天白区	市村 典弘	6月30日から8月2日まで	
		天池 健人	7月31日から9月2日まで	
	千種区	被災者支援関係事務	梅本 高嶺	10月2日から11月1日まで
	東区		上原 雅生	10月2日から11月2日まで
	北区		小林 一也	8月31日から10月1日まで
高見 祐介			11月30日から12月28日まで	
西区	石川 新悟		5月31日から7月2日まで	

派遣先	派遣元	業務内容	氏名	派遣期間
陸前高田市	中村区	被災者支援関係事務	井上 一夫	1月4日から2月2日まで
	中区		加藤 卓磨	5月11日から6月1日まで
	昭和区		八藤後 友介	6月30日から8月1日まで
	瑞穂区		新田 守	2月29日から3月31日まで
	熱田区		紀藤 康一	10月31日から12月2日まで
	中川区		橋本 浩	7月31日から9月2日まで
	港区		水野 啓子	1月31日から3月1日まで
	南区		久本 健悟	5月31日から7月2日まで
	守山区		水野 尊雄	11月30日から12月28日まで
	緑区		八木 啓	8月31日から10月4日まで
	名東区		谷地 直哉	2月29日から3月31日まで
	天白区		関 順也	1月31日から3月2日まで
	北保健所		保健指導業務	松岡 まり子
	昭和保健所	唐川 祐一		5月9日から6月3日まで 9月29日から12月3日まで
	中川保健所	中島 孝予		8月1日から10月3日まで 2月1日から3月31日まで
	教育委員会事務局	学校建設の施工管理	久田 佳典	5月11日から6月30日まで 7月22日から3月31日まで
			平山 暁久	6月27日から7月27日まで
	消防局	防災関係事務	志村 巧	5月11日から3月31日まで
	上下水道局	水道事業運営事務	栗田 義之	5月11日から3月31日まで
	職員共済組合	被災者支援関係事務	鈴木 達郎	5月11日から5月27日まで
派遣職員数136名（延べ144名）				

V 東日本大震災に係る被災地支援の取り組み経過

平成24年度派遣職員

派遣先	派遣元	業務内容	氏名	派遣期間
陸前高田市	総務局	企画政策事務	稲田 利徳	4月1日から3月31日まで
	市民経済局	産業労働事務	西尾 建人	4月1日から3月31日まで
	健康福祉局	生活保護事務	仲本 沙奈美	4月1日から3月31日まで
	健康福祉局	保健指導業務	唐川 祐一	4月1日から3月31日まで
	子ども青少年局	児童福祉事務	住田 武士	4月1日から3月31日まで
	住宅都市局	復興計画推進業務 (防災集団移転事業業務)	内藤 翔太	4月1日から3月31日まで
			復興計画推進業務 (区画整理業務)	岩田 裕康
		学校建設の施工管理	細川 真治	4月1日から3月31日まで
			花山 晋市	4月14日から4月27日まで
			大林 良樹	5月21日から6月2日まで
	小野 伸	7月2日から7月13日まで		
	緑政土木局	道路等復旧業務	宮原 卓也	4月1日から3月31日まで
	上下水道局	水道事業運営事務	中村 真樹夫	4月1日から3月31日まで
		水道復旧業務	小松 克弘	4月1日から3月31日まで
消防局	防災関係事務	井出 隆浩	4月1日から3月31日まで	
教育委員会事務局	学校建設の施工管理	久田 佳典	4月1日から3月31日まで	
仙台市	健康福祉局	社会福祉関係業務	都筑 和弥	4月1日から3月31日まで
	住宅都市局	区画整理関係業務	安藤 彰英	4月1日から3月31日まで
	緑政土木局	宅地災害復旧関係業務	入江 伸行	4月1日から3月31日まで
			小出 涼介	4月1日から3月31日まで
岩手県	環境局	災害廃棄物の処理業務	山際 勝治	4月1日から3月31日まで
派遣職員数21名				

VI その他の東日本大震災に係る被災地支援活動の概要

区 分	内 容
緊急消防援助隊	<p>○平成23年3月11日 16:20から緊急消防援助隊派遣開始</p> <p>指揮支援隊を岩手県庁へ派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月11日～3月30日に第1次隊から第5次隊までを派遣 (3月11日、指揮支援隊を航空部隊が岩手県まで搬送を実施) 4月1日18時00分をもって活動終了(4月2日帰名) ・派遣部隊： 指揮支援隊 ・延べ派遣部隊及び人員： <u>5隊 25名</u> ・主な活動状況： 緊急消防援助隊の指揮支援活動 <p>愛知県隊名古屋市隊を宮城県へ派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月11日～4月22日に第1次隊から第16次隊までを派遣 4月22日17時00分をもって活動終了(4月24日帰名) ・派遣部隊： 愛知県隊指揮隊、消火部隊、救助部隊、救急部隊、 後方支援部隊 ・延べ派遣部隊及び人員： <u>124隊 507名</u> ・主な活動状況： 宮城県亙理郡亙理町を中心に捜索・救出活動を実施 <p>愛知県隊名古屋市隊を岩手県へ派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月24日に第1次隊を派遣 3月29日12時00分をもって活動終了(3月29日帰名) ・派遣部隊： 航空部隊 ・延べ派遣部隊及び人員： <u>1隊 5名</u> ・主な活動状況： 救急搬送、物資搬送等 <p>名古屋市隊を福島県へ派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月25日に第1次隊を派遣 3月28日16時00分をもって活動終了(3月29日帰名) ・派遣部隊： 総括隊長、特殊装備部隊、後方支援部隊 ・延べ派遣部隊及び人員： <u>6隊 34名</u> ・主な活動状況： 福島第一原子力発電所における使用済み核燃料プールへの冷却放水活動支援 <p>○平成23年4月23日 12:00をもって緊急消防援助隊派遣終了</p> <p>○平成23年5月3日 9:30から緊急消防援助隊を追加派遣</p> <p>愛知県隊名古屋市隊(ヘリ1機)を宮城県へ派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月3日～5月9日に第2次隊を派遣 5月9日14時00分をもって活動終了(5月9日帰名) ・5月20日～5月26日に第3次隊を派遣 5月26日9時00分をもって活動終了(5月26日帰名) ・派遣部隊： 航空部隊 ・延べ派遣部隊及び人員： <u>2隊 10名</u> ・主な活動状況： 宮城県霞目駐屯地を拠点に被災地の情報収集、救急搬送等を実施 <p>○平成23年5月26日 9:00をもって緊急消防援助隊追加派遣終了</p> <p><u>延べ派遣部隊及び人員 138隊 581名</u></p>

区 分	内 容
<p>上下水道 (水道)</p>	<p>○平成23年3月11日 先遣隊 <u>3名</u>を宮城県仙台市へ派遣 ・宮城県仙台市及び石巻市の被害状況調査</p> <p>○平成23年3月12日 第一次応援隊(応急給水) <u>8名</u>を宮城県仙台市へ派遣 ・給水タンク車2台(3.8m³、3.8m³)で13日より応急給水活動</p> <p>○平成23年3月13日 第二次応援隊(応急給水) <u>8名</u>を宮城県仙台市へ派遣 ・給水タンク車2台(1.8m³、3.8m³)で14日より応急給水活動</p> <p>○平成23年3月15日 1) 支援物資搬送 ・災害用備蓄飲料水「名水」24,000本、5ℓポリタンク5,000個を石巻地方広域水道企業団蛇田浄水場へ(4トントラック3台)</p> <p>2) 後方支援隊 <u>4名</u>を宮城県仙台市へ派遣 ・宮城県内の応援活動の支援</p> <p>3) 調査隊 <u>3名</u>を仙台市へ派遣 ・宮城県内の水道被害状況の調査、応援内容と応援体制の調整</p> <p>○平成23年3月17日 通水復旧隊 <u>7名</u>を仙台市へ派遣 ・宮城県広域水道送水管の通水作業等</p> <p>○平成23年3月19日 第三次応援隊(応急給水) <u>12名</u>を宮城県仙台市へ派遣 ・給水タンク車4台(3.8m³×3台1.8m³×1台)で応急給水活動</p> <p>○平成23年3月20日 本部応援隊 <u>2名</u>を仙台市へ派遣 ・他応援自治体との調整</p> <p>○平成23年3月23日 1) 第二次通水復旧隊 <u>7名</u>を仙台市へ派遣 ・3月17日出発した宮城県広域水道送水管の通水復旧隊の増員</p> <p>2) 第二次調査隊 <u>8名</u>を仙台市へ派遣 ・宮城県内の水道被害状況の調査、応援内容と応援体制の調整</p> <p>○平成23年3月25日 第四次応援隊(応急給水) <u>9名</u>を宮城県仙台市へ派遣(第三次応援隊の交代要員) ・給水タンク車4台(3.8m³×3台1.8m³×1台)で応急給水活動</p> <p>○平成23年3月26日 支援物資搬送 ・災害用備蓄飲料水「名水」15,600本を石巻地方広域水道企業団蛇田浄水場へ(4トントラック2台)</p> <p>○平成23年3月27日 <u>4名</u>を宮城県石巻市へ派遣 ・石巻地方広域水道企業団の水道管修理、2工事業者14名を同行</p> <p>○平成23年4月1日 応急復旧隊 1) 第五次応援隊(応急給水) <u>4名</u>を宮城県石巻市へ派遣(第四次応援隊の交代要員) ・給水タンク車2台(3.8m³×2台)で応急給水活動</p>

区 分	内 容
<p>上下水道 (水道)</p>	<p>2) 第三次調査隊 <u>13名</u>を宮城県石巻市へ派遣(第二次調査隊の交代要員) ・石巻市内の水道被害状況の調査、応援内容と応援体制の調整 ○平成23年4月3日 第二次応援復旧隊 <u>4名</u>を宮城県石巻市へ派遣(応急復旧隊の交代要員) ・石巻地方広域水道企業団の水道管修理、2工事業者14名と同行 ○平成23年4月7日 1) 第六次応援隊(応急給水) <u>4名</u>を宮城県石巻市へ派遣(第五次応援隊の交代要員) ・給水タンク車2台(3.8m³×2台)で応急給水活動 2) 第四次調査隊 <u>12名</u>を宮城県石巻市へ派遣(第三次調査隊の交代要員) ・石巻市内の水道被害状況の調査、応援内容と応援体制の調整 ○平成23年4月10日 第三次応援復旧隊 <u>4名</u>を宮城県石巻市へ派遣 ・石巻地方広域水道企業団の水道管修理、2工事業者14名と同行 ○平成23年4月13日 1) 第七次応援隊(応急給水) <u>4名</u>を宮城県石巻市へ派遣(第六次応援隊の交代要員) ・給水タンク車2台(3.8m³×2台)で応急給水活動 2) 第五次調査隊 <u>12名</u>を宮城県石巻市へ派遣(第四次調査隊の交代要員) ・石巻市内の水道被害状況の調査、応援内容と応援体制の調整 ○平成23年4月19日 1) 第八次応援隊(応急給水) <u>4名</u>を宮城県石巻市へ派遣(第七次応援隊の交代要員) ・給水タンク車2台(3.8m³×2台)で応急給水活動 2) 調査隊 <u>4名</u>を宮城県石巻市へ派遣 ・宮城県及び応援自治体等との調整 ○平成23年4月25日 1) 第九次応援隊(応急給水) <u>4名</u>を宮城県石巻市へ派遣(第八次応援隊の交代要員) ・給水タンク車2台(3.8m³×2台)で応急給水活動 2) 第二次調査隊 <u>2名</u>を宮城県石巻市へ派遣 ・宮城県及び応援自治体等との調整 ○平成23年4月30日をもって派遣終了 <u>水道延べ派遣人員 146名</u></p>

区 分	内 容
上下水道 (下水道)	<p>○平成23年3月12日 先遣隊 <u>3名</u>を岩手県盛岡市へ派遣 ・岩手県内の被害状況調査等</p> <p>○平成23年3月16日 調整隊 <u>3名</u>を岩手県庁へ派遣、 ・下水道管路施設の調査対象地域の調整、被害状況の情報収集</p> <p>○平成23年3月22日 第二次調整隊 <u>3名</u>を岩手県庁へ派遣 ・下水道管路施設の調査対象地域の調整、被害状況の情報収集</p> <p>○平成23年3月23日 調査隊 <u>9名</u>を岩手県庁へ派遣 ・岩手県内の下水道管路施設の被害状況調査</p> <p>○平成23年3月28日 第三次調整隊 <u>3名</u>を岩手県庁へ派遣 ・下水道管路施設の調査対象地域の調整、被害状況の情報収集</p> <p>○平成23年3月30日 第二次調査隊 <u>10名</u>を宮城県石巻市へ派遣 ・石巻市内の下水道管路施設の被害状況調査</p> <p>○平成23年4月3日 第三次調査隊 <u>4名</u>を宮城県石巻市へ派遣、第二次調査隊の増援 ・石巻市内の下水道管路施設の被害状況調査</p> <p>○平成23年4月4日 第四次調整隊 <u>3名</u>を宮城県石巻市へ派遣 ・下水道管路施設の調査対象地域の調整、被害状況の情報収集</p> <p>○平成23年4月6日 第四次調査隊 <u>3名</u>を宮城県石巻市へ派遣 ・石巻市内の下水道管路施設の被害状況調査</p> <p>○平成23年4月11日 第五次調整隊 <u>3名</u>を宮城県石巻市へ派遣 ・下水道管路施設の調査対象地域の調整、被害状況の情報収集</p> <p>○平成23年4月11・12日 第五次調査隊 <u>10名</u>を宮城県石巻市へ派遣 ・石巻市内の下水道管路施設の被害状況調査</p> <p>○平成23年4月18日 1) 第六次調整隊 <u>3名</u>を宮城県石巻市へ派遣 ・下水道管路施設の調査対象地域の調整、被害状況の情報収集</p> <p>2) 第六次調査隊 <u>10名</u>を宮城県石巻市へ派遣 ・石巻市内の下水道管路施設の被害状況調査</p> <p>○平成23年4月25日 1) 第七次調整隊 <u>3名</u>を宮城県石巻市へ派遣 ・下水道管路施設の調査対象地域の調整、被害状況の情報収集</p> <p>2) 第七次調査隊 <u>6名</u>を宮城県石巻市へ派遣 ・石巻市内の下水道管路施設の被害状況調査</p> <p>○平成23年5月2日 <u>6名</u>を宮城県石巻市へ派遣 ・石巻市内の下水道管路施設の被害状況調査</p> <p>下水道延べ派遣人員 82名</p>

区分	内容
健康	<p>○平成23年3月15日～4月9日 8：30 保健師3名を仙台市宮城野区へ派遣 ※ただし、第2班以降は保健師4名 (1チームの派遣期間：5泊6日(移動日含む。)) ・延べ派遣人員 保健師23名、事務・運転担当4名(合計6班)</p> <p>○平成23年4月8日～29日 保健師4名を宮城県東松島市へ派遣 ・延べ派遣人員 保健師20名、事務担当4名(合計5班)</p> <p>○平成23年3月23日～3月28日 心のケアチーム5名(精神科医1名、保健師1名、精神保健福祉相談員1名、事務・運転担当2名)を宮城県気仙沼市へ派遣 ※25日～は4名体制(事務・運転担当2名→1名)</p> <p>○平成23年5月13日～5月19日 心のケアチーム2名(精神科医1名、事務担当1名)を宮城県気仙沼市へ派遣</p> <p>○平成23年3月21日～25日 医療救護班(医師1名、看護職員2名、薬剤師1名、事務2名)2班を仙台市へ派遣(延べ12名)(病院局・市立大学)</p> <p>○平成23年3月24日～28日 医療救護班(医師1名、看護職員2名、薬剤師1名、事務1名)1班を仙台へ派遣(病院局) 医療救護班(医師1名、看護職員2名、薬剤師1名、事務1名)1班を仙台へ派遣(市立大学)</p> <p>○平成23年3月27日～31日 医療救護班(医師1名、看護職員2名、薬剤師1名、事務1名)1班を仙台へ派遣(病院局)</p> <p>○平成23年3月30日～4月3日 医療救護班(医師1名、看護職員2名、薬剤師1名、事務1名)1班を仙台へ派遣(市立大学)</p> <p>○平成23年4月2日～4月6日 医療救護班(医師1名、看護職員2名、薬剤師1名、事務1名)1班を仙台へ派遣(病院局)</p> <p>○平成23年4月5日～4月9日 医療救護班(医師1名、看護職員2名、薬剤師1名、事務1名)1班</p> <p>○平成23年4月8日～4月12日 医療救護班(医師2名、看護職員2名、薬剤師1名)1班を仙台へ派遣(病院局)</p> <p>○平成23年4月11日～4月15日 医療救護班(医師1名、看護職員2名、薬剤師1名、事務1名)1班を仙台へ派遣(市立大学)</p> <p>○平成24年1月6日～9日 看護師1名を福島第一原発内診療所へ派遣(市立大学)</p> <p>○震災により人工透析を受けられなくなった方を対象として市営住宅5戸を提供 ・入居期間は6ヶ月以内(最長、平成25年3月31日まで更新可能) ・使用料は無償</p>

区 分	内 容
健康	<p>○予防接種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民票の異動の有無にかかわらず、定期予防接種及び任意予防接種（子宮頸がん、ヒブ、小児肺炎球菌に限る。）について、あらかじめ申請することにより接種可能とする。 ・接種費用は無料 <p><u>延べ派遣人員 111名</u></p>
動物保護	<p>○平成23年7月20日～26日</p> <p>動物愛護センター技士4名を福島第一原発から半径20km以内の警戒区域エリアの9市町村（福島県田村市、南相馬市、双葉郡檜葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村）へ派遣</p> <p><u>延べ派遣人員 4名</u></p>
被災宅地危険度判定	<p>○平成23年4月19日～22日</p> <p>被災宅地危険度判定士3名を宮城県仙台市へ派遣</p> <p><u>延べ派遣人員 3名</u></p>
救援物資搬送	<p>○平成23年3月13日</p> <p>6:00 先導車1両4名、10tトラック5両で下記物資を仙台市へ搬送（職員4名派遣）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毛布 5,000枚 ・乾パン 50,000食 ・アルファ化米 5,000食 ・くみ取り式仮設トイレ 5基 ・ストーブ 200台 <p>○平成23年3月17日</p> <p>14:00 先導車1両4名、10tトラック2両で下記物資を仙台市に搬送（職員4名派遣）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファ化米 53,300食 ・粉ミルク 4,120箱 ・粉ミルク（アレルギー対応） 60缶 ・哺乳瓶 2,950本 ・パン缶詰 2,400食 ・子ども用紙おむつ 25,672枚 ・大人用紙おむつ 15,040枚 ・生理用品 11,264枚 <p>○平成23年3月19日</p> <p>特に被害が著しい3県（岩手、宮城、福島）に対して、その要請に応じてそれぞれ1億円相当の物資を贈呈することを各県知事と合意</p> <p>○平成23年3月22日～3月28日まで（現在、一時休止）</p> <p>個人、企業等からの下記支援物資の受付窓口を旧六反小学校体育館に設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保存米飯（乾燥米飯、缶詰米飯、包装米飯） ・乾パン ・即席めん ・プルトップ式缶詰 ・粉ミルク ・紙おむつ ・生理用品

区 分	内 容																
<p>救援物資搬送</p>	<p>【受付実績】</p> <p>申込者総数 1,062人 単位：箱</p> <table border="1" data-bbox="443 280 1428 409"> <thead> <tr> <th>保存米飯</th> <th>乾パン</th> <th>即席めん</th> <th>プルトップ式缶詰</th> <th>粉ミルク</th> <th>紙おむつ</th> <th>生理用品</th> <th>7品目の総箱数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>173</td> <td>114</td> <td>690</td> <td>148</td> <td>113</td> <td>1,179</td> <td>316</td> <td>2,733</td> </tr> </tbody> </table> <p>○平成23年3月24日 9:00 先導車1両4名、4tトラック1両で宮城県牡鹿郡女川町及び本吉郡南三陸町に災害用仮設トイレ40基を搬送</p> <p>○平成23年3月24日 社団法人日本動物園水族館協会から3都市（仙台市、日立市、盛岡市）の動物園へ動物飼料の支援要請があり、リンゴ100kgなどを提供</p> <p>○平成23年3月26日 13:00 4tトラック1両で茨城県高萩市にヘルメット500個を搬送</p> <p>○平成23年3月28日 簡易トイレ900箱（90,000回分）を宮城県石巻市に搬送</p> <p>○平成23年3月28日 「名チャリ」で使用した放置自転車107台を、宮城県石巻市へ搬送。（空気入れ10個、パンク修理キット79個を含む）現地での引渡しのため、車両1台と職員4名を派遣</p> <p>○平成23年4月11日 福島県からの要請により、電気自動車（三菱アイミーブ（i-MiVE））15台を、福島県庁へ搬送（15台のうち2台は、23年9月に発生した台風15号の影響により故障したため廃棄）</p> <p>○平成23年4月26日 宮城県からの要請により、四輪駆動車（日産エクストレイル 22台、三菱パジェロ 15台、トヨタランドクルーザープラド 5台）42台及び生活支援物資（紙おむつ、即席めん、生理用品、缶詰、子ども用おもちゃ、日用品、米・飲料水等）230箱を、宮城県庁へ搬送</p> <p>○平成23年5月2日 福島県からの要請により、電気自動車（三菱アイミーブ）12台を、福島県へ搬送</p> <p>○平成23年5月13日 岩手県からの要請により、四輪駆動車（スバルフォレスター 3台、スバルレガシー 4台、スバルサンバー 6台）13台を、岩手県庁へ搬送</p> <p>○平成23年5月25日 <u>名古屋市内のNPOを通じて、岩手県陸前高田市から自転車の提供について要請があり、リサイクル自転車129台を搬送</u></p> <p>○平成23年6月20日 総務省消防庁の要請により、消防車両（水槽付き消防ポンプ車）1台を名取市消防本部へ提供</p> <p>○平成23年6月28日 全国自転車問題自治体連絡協議会（通称：全自連）に、<u>岩手県盛岡市から自転車400台の提供について要請があり、名古屋市からは、そのうち、50台についてリサイクル自転車を搬送</u></p>	保存米飯	乾パン	即席めん	プルトップ式缶詰	粉ミルク	紙おむつ	生理用品	7品目の総箱数	173	114	690	148	113	1,179	316	2,733
	保存米飯	乾パン	即席めん	プルトップ式缶詰	粉ミルク	紙おむつ	生理用品	7品目の総箱数									
	173	114	690	148	113	1,179	316	2,733									

区 分	内 容
<p>救援物資搬送</p>	<p>○平成23年7月4日 岩手県からの要請により、四輪駆動車（マツダファミリア）14台を、岩手県へ搬送</p> <p>○平成23年9月27日 全国自転車問題自治体連絡協議会（通称：全自連）に、福島県相馬市から自転車400台の提供について要請があり、名古屋市からは、そのうち、130台についてリサイクル自転車を搬送</p> <p>○平成23年10月27日 名古屋市内のNPOを通じて、宮城県南三陸町から自転車の提供について要請があり、リサイクル自転車165台を名古屋市から搬送</p> <p>○平成23年11月9日 岩手県からの要請により、高規格救急車（トヨタハイメディック）2台を、岩手県へ搬送</p> <p>○平成23年12月6日 全国自転車問題自治体連絡協議会（通称：全自連）に、宮城県石巻市から自転車の提供について要請があり、名古屋市からは、リサイクル自転車58台を搬送</p> <p>○平成24年3月22日 岩手県陸前高田市から自転車の提供について要請があり、リサイクル自転車20台を搬送</p> <p>延べ派遣人員16名</p>
<p>廃棄物処理</p>	<p>○仙台市への震災ごみ収集隊派遣 震災ごみを自己搬入できない高齢者等を対象とした戸別収集を行うため、車両（大型プレス車1両、小型プレス車2両、中型ダンプ1両、小型ダンプ2両、連絡車2両、合計8両）及び職員を派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年5月21日～5月29日 第1次隊21名を派遣 ・平成23年5月29日～6月5日 第2次隊20名を派遣 ・平成23年6月5日～6月12日 第3次隊20名を派遣 ・平成23年6月12日～6月19日 第4次隊20名を派遣 ・平成23年6月19日～6月25日 第5次隊20名を派遣 <p>○岩手県の災害廃棄物処理計画の策定等に従事する職員の派遣 岩手県からの要請により、廃棄物指導業務の経験が豊富な職員と契約事務精通した職員の計2名を派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年6月13日～9月16日 A班2名を派遣 ・平成23年9月14日～12月28日 B班2名を派遣 ・平成24年1月6日～2月19日 A班2名を派遣 ・平成24年2月15日～4月1日 B班2名を派遣 <p>延べ派遣人員109名</p>

区 分	内 容
義援金	<p>○平成23年3月14日～平成24年3月31日 義援金（中央共同募金会）募集協力</p> <p>○平成23年3月17日から市民利用施設に募金箱設置（16区役所始め359か所）</p> <p>○平成23年3月19日 ボランティア、市社協・市職員有志による街頭募金実施</p> <p>○平成23年3月19日 リニア鉄道館前において市職員有志による街頭募金実施</p> <p>○平成23年3月19日～20日 アスナル金山において、はち丸、ボランティアによる街頭募金実施</p> <p>○平成23年3月20日 オアシス21において市職員有志による街頭募金実施</p> <p>○平成23年3月19日～5月8日（東山公園春まつり） 東山動植物園において、東山公園春まつり期間中、各イベント終了後、職員による募金活動の実施</p>
災害援護資金	<p>○平成23年9月3日～12月29日 災害援護資金貸付けに係る審査・振込等事務のため、職員1名を宮城県仙台市へ派遣</p> <p>延べ派遣人員1名</p>
税	<p>○平成23年4月15日～28日 愛知県市長会の要請により、り災証明交付にかかる業務（家屋被害調査、証明交付事務等）職員4名を宮城県仙台市へ派遣</p> <p>延べ派遣人員4名</p>
教育	<p>○文化財レスキュー事業への学芸員の派遣 文化庁が実施する東北地方太平洋沖地震被災文化財等支援事業（文化財レスキュー事業）に基づく学芸員の派遣 平成23年7月12日～7月14日（移動日を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仙台市博物館へ博物館より1名を派遣 ・ 宮城県亶理郡亶理町の旧家での近代文学資料の保管業務に従事 <p>○平成23年7月11日～7月15日（移動日を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 陸前高田市立博物館へ美術館より1名を派遣 ・ 陸前高田市立博物館収蔵の美術作品の保管業務に従事 <p>延べ派遣人員2名</p>
子ども	<p>○福島県県中児童相談所への派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 派遣期間：平成23年4月11日（月）から4月15日（金） 4月10日（日）に名古屋市を出発、16日（土）に名古屋市帰着 ・ 児童福祉司1名、児童心理司1名の計2名 ・ 福島県県中児童相談所管内の避難所等をまわり、要保護児童の調査等の業務に従事する。 <p>延べ派遣人員2名</p>

区 分	内 容
ボランティア	<p>○平成23年3月24日 ボランティア活動の情報を収集するため、職員1名を宮城県七ヶ浜町に派遣</p> <p>○平成23年3月15日 あいち・なごや東北関東大地震ボランティア支援連絡会（愛知県・名古屋市の被災地ボランティア支援体制の窓口）の立ち上げ</p> <p>○平成23年4月14日 「東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや」の設置</p> <p>○災害ボランティアコーディネーターの派遣 災害ボランティアによる地域防災力向上事業（新しい公共事業支援）において、名古屋市災害ボランティアコーディネーター18名を岩手県大槌町及び宮城県七ヶ浜町へ派遣</p> <p>延べ派遣人員19名</p>
選挙	<p>○平成23年11月9日～21日 福島県双葉町への選挙事務にかかる支援のため、双葉町福島支所（福島県郡山市）に職員2名を派遣</p> <p>延べ派遣人員2名</p>



東日本大震災に係る被災地支援活動記録集
～平成23年3月11日から2年間の取り組み～

発 行 名古屋市被災地域支援本部
(総務局総合調整部総合調整室)
名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
電 話 : 052-972-3961
F A X : 052-972-4112
E-mail : a2223-03@somu.city.nagoya.lg.jp
発行年月 平成25年3月

この冊子は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。